

第3回マリンテックグランプリ 活動報告書



マリンテック
グランプリ

1.活動内容

1.1. マリンテックグランプリ（応募、選考、発掘期間）

- 時期：2019年4月1日～2019年9月28日
- 対象：次の①、②のいずれかを満たす、技術シーズをもとにビジネス化を志す起業家
 - ①海洋関連の技術シーズを保有し、様々な事業領域への進出を目指す
 - ②様々な分野の技術シーズをもとに、海洋関連の課題を解決することを目指す
- 内容：書類審査、プレゼンテーション審査にもとづくコンテスト。選考に向けたコミュニケーションとのマッチングおよび助言
- 表彰：最優秀賞1件、企業賞10件
- 目標：ベンチャーキャピタル等第三者からの投資を将来受ける可能性があると考えられる質の高い起業家候補からのコンテストへのエントリーが12件以上あること

1.2. マリンテックグランプリ（伴走支援期間）

- 時期：2019年9月29日～2020年3月31日
- 対象者：コンテスト応募者のうち書類選考を通過したチーム（12チーム）
- 内容：事業化に向けた支援（研究開発、資金調達、事業計画立案、チーム形成など経営に関わる全般的なことについて）、月1回程度の面談等によりコミュニケーションを図り助言を行なう。また、事業構想の具体化の進捗に応じて、適宜研究機関や町工場、大企業を紹介していく。
- 目標：ファイナリストのうち8割以上の起業家候補が年度末まで熱意をもって活動を続けること。

1.3. シンポジウムの実施

- 時期：2020年3月

2.マリンテックグランプリ事業内容詳細

詳細は以下の通りである。

2.1 スケジュール

4月	<エントリー募集> ・昨年度、声掛けした約57件にアプローチ ・海洋関係の研究者約540件にアプローチ ・上記に対し、本プロジェクト趣旨とエントリーの案内を配布。（冊子「海への挑戦」を配布）
5月	<エントリー募集> ・4月にアプローチした方に対して、メール、電話でのアポイントメントを実施 ・訪問／オンラインでの面談を通して、プロジェクトの広報とエントリー案内を実施 <会場> ・契約
6月	<エントリー募集> ・継続して、アポイントメントと訪問／オンラインでの面談を行う

	<p><メンタリング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エントリー者に対してメンタリングを実施（申請内容のブラッシュアップ） ・ 以下イベントを通してメンタリング <p>6/23（日）テックプランターキックオフイベント@大阪 6/30（日）テックプランターキックオフイベント@東京</p>
7月	<p><メンタリング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続してエントリー者に対しメンタリングを実施（申請内容のブラッシュアップ） <p><エントリー募集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7/12（金）エントリー締切 ・ 7/24（水）書類選考→ファイナリスト決定
8月	<p><メンタリング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続してエントリー者に対しメンタリング（申請内容のブラッシュアップ） <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/2（金）書類選考結果通知
9月	<p><メンタリング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続してエントリー者に対しメンタリング（申請内容のブラッシュアップ） <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/28（土）マリンテックグランプリ（最終選考会）
12月	<p><メンタリング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エントリー者／ファイナリストの中から選考を行い、事業化の可能性が高いチーム3件に対して、事業可能性調査費（50万円）を支給し事業化の加速を行う
3月	<p><シンポジウム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/6-7 超異分野学会学会にてマリンテックグランプリファイナリストを招待し、プレゼンテーション行って頂く。 <p>※新型コロナウイルス感染症に関する日本政府の指針を受け、4/23に延期。さらに、緊急事態宣言の発令を受け、同日にオンラインにて一部パネルディスカッションと3分研究発表を行うこととなった。</p>

2.2 概要

<趣旨と目的>

大学や研究機関、企業の研究所では科学技術の「種」が生まれているが、実用化に向けて芽を出すまでに大変な努力を要する。テックプランターは、これを発掘し、ビジネスまで芽吹かせるプランターとしての役割を担うことを目的としたプログラムである。「第3回マリンテックグランプリ」は、リアルテック領域（海洋開発、水産、マリンバイオ、海洋観測、気象、海底資源、海洋ロボティクス等）の技術シーズと起業家の発掘育成を目的としたビジネスプランコンテストである。

<対象>

リアルテック領域（ものづくり、ロボティクス、モビリティ、IoT、人工知能、素材、バイオ、医療、ヘルスケア、食、農業、海洋開発、資源、環境、エネルギーなど）の技術シーズをもとに世界を変えたい、世の中をよくしたいという構想を持ち、創業あるいは新事業展開の意志がある方。

<募集>

募集期間：2019年4月1日～2019年7月12日

応募方法：ウェブサイト（<https://techplanter.com/entry/>）にてメンバー登録のうえ、webフォームへの記入を行なって応募

<審査基準>

審査員により、1. 新規性 2. 実現可能性 3. 世界を変えそうか 4. パッションの各項目により審査

2.3 広報

WEB、展示会、個別面談等により約600名の研究者・企業へのアプローチを行い応募へ誘導。結果38チームのエントリーに至った。以下に各募集に関する概要を記載する。

<WEB>

マリンテックグランプリ応募用のWEBを作成し、WEBで募集を行った。

参考URL：<https://techplanter.com/mtg2019/>

The screenshot displays the recruitment page for the Marine Tech Grand Prix 2019. Key information includes:

- Overview and Purpose:** Aims to support startups in the marine technology field through a competition.
- Target Audience:** Startups in marine technology, robotics, IoT, AI, and related fields.
- Recruitment Period:** From March 1, 2019, to July 12, 2019.
- Application Method:** Via the website https://id.line.st/pre_regist?s=tp.
- Evaluation Criteria:** Novelty, feasibility, potential for world change, and passion.
- Prizes:** Grand prize (300,000 JPY + 500,000 JPY investment), 1st prize (200,000 JPY), and company award (200,000 JPY).
- Main Organizers:** The Nippon Foundation, JASTO, and Leave a Nest.

2.4 エントリー

WEBでの広報及び学会出展、個別研究者訪問、広報冊子の配布等により、約600名の研究者・企業に情報を展開し、マリンテックグランプリの参加の可能性について検討をしてもらった。最終的に38チームのエントリーを獲得した。

#	カテゴリー	チーム名 / 会社名	会社設立日	プロジェクト名
1	運動・スポーツ	株式会社海月	2019/07/08	サーフィンをより楽しくするガジェットデバイスの開発

2	水産	株式会社Smolt	2019/04/11	宮崎大学発！循環型サクラマス生産で地域水産業を拓く
3	材料科学	株式会社カナラボ	2019/04/04	異種・同種材料の改質による真の接着の実現-接着と塗装の強化による材料革新
4	エネルギー	永嶋プランニング株式会社	2019/04/03	常温の水から熱エネルギーの回収（発電、冷熱温越の供給、水素の製造、海水の淡水化）
5	食品	株式会社Transient	2019/02/20	定置網の可視化・漁船の燃費効率化
6	水産	Everblue Technologies	2018/12/21	小型自律分散自動操船ヨット開発による漁業支援、エネルギー運搬、各種サーベイランス
7	海洋工学	Astrocean	2018/11/18	体験型ロケット海上打ち上げイベントの創出
8	ごみ回収・廃棄物・リサイクル	株式会社ワンワールド・ジャパン	2018/02/19	過熱水蒸気熱分解技術による海洋ごみの資源化
9	IoT	株式会社ライトハウス	2017/09/04	船舶Connectedプラットフォーム"ISANA"
10	ドローン	RedDotDrone Pte.Ltd.	2017/02/14	広域スポーツとドローン（空飛ぶ撮影スタジオの実現）
11	-	地球科学可視化技術研究所株式会社	2016/06/23	博物館発ベンチャーの創出と利活用
12	ヘルスケア	株式会社マリンナノファイバー	2016/04/28	カニ殻由来の新素材キチンナノファイバーで美容と健康を届けます
13	ドローン	株式会社かもめや	2016/04/19	ドローン物流事業者向けの運行管理システムインフラソリューション提供
14	水産	炎重工株式会社	2016/02/25	生体群制御技術を用いた養殖自動化システム
15	ごみ回収・廃棄物・リサイクル	株式会社BRAIN	2014/09/29	サプライチェーン革命
16	ごみ回収・廃棄物・リサイクル	サステイナブルエネルギー開発株式会社	2014/06/04	海洋漂着プラごみ等を原料にしたメタン発酵ガス化発電事業
17	エネルギー	株式会社エステン化学研究所 東京農工大学	2012/09/19	超低燃費型ハイドロゲル水性船底塗料
18	ごみ回収・廃棄物・リサイクル	株式会社ピリカ	2011/11/21	河川や港湾で利用可能なプラスチック浮遊量調査装置の開発とプラスチック流出メカニズムの解明
19	海洋工学	株式会社リューテック	2011/03/03	海底掘削用ドリルパイプへの非接触給電

20	水産	うみの株式会社	2010/10/31	倍数体とAIを活用した効率的養殖の実現
21	海洋工学	Tropical Robots	2001/03/05	音響無線技術による水中リモートコントロール・ロボット
22	水産	Giant Squid	-	深海性大型種を含むイカ類の安定的輸送および飼育技術の開発
23	海洋工学	Marine Technology Research	-	Sky to Water沿岸域調査システムの開発
24	材料科学	Maritime	-	3Dプリンターで作られたプラスチックから生まれるゴミを0にする方法: キチン・セルロース
25	バイオテクノロジー	Novelgene	-	新規遺伝子探索アレーを用いた海洋マイクロプラスチック分解による環境浄化
26	海洋工学	Watatsumi	-	自律型汎用海洋ブイによる海洋利用機会の促進
27	海洋工学	Wave Harmonizer (WHizzer)研究開発グループ	-	酔わない船で海に行きましょう!
28	資源開発	White Beach Project	-	White Eco Beach Project
29	水産	ビワトロマス・プロジェクト	-	リサイクル型ビワマス養殖システム開発事業
30	水産	フジツボと一緒に	-	バイオマス由来の環境にやさしい海洋生物付着防止化合物の創生
31	バイオテクノロジー	ルリティクス	-	サンゴ絶滅阻止への貢献を目指したアクアリウムからサンゴ初の「プロバイティクス」開発
32	エネルギー	羽ばたき堂	-	空と風との間には
33	水産	根室喰nemurock 松田商店	(個人事業)	漁業収益向上を目指した鮮魚の高鮮度保持技術の開発
34	ロボティクス	信州大学繊維学部小林研究室	-	バイオインスパイアードアクアロボット
35	ドローン	長崎大学 山本郁夫研究室	-	赤潮サンプリングロボットAKABOT
36	海洋工学	長崎大学 山本郁夫研究室	-	振動翼発電装置
37	ごみ回収・廃棄物・リサイクル	廃ゴムリサイクルプロジェクト	-	キノコによる廃ゴム再資源化プロジェクト
38	エネルギー	波乗りダッキー	-	アヒル発電 (自律走行機能付き波力発電システム)

※エントリー時の登録内容抜粋

2.5 一次選考（書類審査）

リバネスおよびパートナー企業によって構成される審査員により、書類審査を実施。チーム、技術、パッション、将来構想などについての情報をwebフォームおよび動画にて提出。申請者全員に、審査結果をお知らせするとともに、応募内容に対するフィードバックを実施。

以下、書類審査企業一覧

株式会社リバネス、公益財団法人日本財団、日本ユニシス株式会社、ロート製薬株式会社、三井化学株式会社、日鉄エンジニアリング株式会社、小橋工業株式会社、株式会社荏原製作所、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、大日本印刷株式会社、サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

上記で得られた評価を元に、最終的に7月23日（火）にファイナリスト12チームを決定するための審査会を開催した。

2.6 コンテストに向けた面談

書類審査後、ファイナリスト12チーム、ライトニングトーク4チームに対して、各チーム2,3回程度打ち合わせを実施して、事業計画及びプレゼンテーション作成に関する助言を行った。

2.7 マリントックグランプリ

<概要>

- グランプリ名：第3回マリントックグランプリ
- 場所：東京コンファレンスセンター・有明
〒135-0063 東京都江東区有明3丁目7-18 有明セントラルタワー 3F
- 開催日時：2019年9月28日（土）13:00-19:00（懇親会 19:10-20:30）
- 参加者：約200名（ファイナリスト、ライトニングトーク参加者、ダイヤモンドパートナー、経営支援パートナー、スーパーファクトリーグループ、スポットパートナー、アカデミアの研究者、学生）
- 主催：公益財団法人日本財団、株式会社リバネス、JASTO（一般社団法人日本先端科学技術教育人材研究開発機構）



<当日のタイムライン>

- 12:30～13:00 開場
- 13:00～13:30 主催者あいさつ
- 13:30～14:30 最終選考プレゼン（Presenter①～④）
- 14:30～14:45 休憩
- 14:45～15:45 最終選考プレゼン（Presenter⑤～⑧）
- 15:45～16:00 休憩
- 16:00～17:00 最終選考プレゼン（Presenter⑨～⑫）
- 17:00～17:50 審査時間・ライトニングトーク

17:50～19:00 審査結果発表および表彰式
19:10～20:30 懇親会

<ダイヤモンドパートナー一覧>

- 日本ユニシス株式会社
- ロート製薬株式会社
- 三井化学株式会社
- 日鉄エンジニアリング株式会社
- 小橋工業株式会社
- 株式会社荏原製作所
- 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
- 大日本印刷株式会社
- サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

UNISYS

日本ユニシス株式会社

NEVER SAY NEVER
ロート製薬

ロート製薬株式会社



三井化学
三井化学株式会社



日鉄エンジニアリング株式会社

KOBASHI

小橋工業株式会社



株式会社荏原製作所



SOMPO ホールディングス | 信頼の高へ、真の、
損保ジャパン日本興亜

未来のあたりまえをつくる。
DNP

大日本印刷株式会社

SUNTORY

サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

<スポットパートナー企業一覧>

- 川崎重工業株式会社
- 日本水産株式会社
- 三菱電機株式会社
- ツネイシホールディングス株式会社
- 関西電力株式会社
- ヤマハ発動機株式会社
- 株式会社ユーグレナ
- 東洋紡株式会社
- ヤンマー株式会社
- 吉野家ホールディングス

Kawasaki
Powering your potential



MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better

常石グループ

関西電力
power with heart

TOYOBO
Ideas & Chemistry

YAMAHA
Rev's Your Heart

YANMAR

euglena

YOSHINOYA HOLDINGS

<審査員一覧>

ご所属	ご役職	お名前
株式会社リパネス	代表取締役グループCEO	丸 幸弘 (※)
日本財団	常務理事	海野 光行
日本ユニシス株式会社	執行役員	宮田 勲
三井化学株式会社	研究開発本部 機能材料研究所 繊維強化複合材G グループリーダー	森 亮二
日鉄エンジニアリング株式会社	海洋事業部 技術部 設備企画室長	箱田 利秀
小橋工業株式会社	東京研究所 所長	中谷 公紀
株式会社荏原製作所	環境事業カンパニー 事業企画部 部長	柘檀 恵治
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	ビジネスクリエーション部 リーダー	出口 常夫
大日本印刷株式会社	理事 技術・研究開発本部 研究開発統括室	岡 素裕
川崎重工業株式会社	理事 企画本部イノベーション部長 野田 真	野田 真
日本水産株式会社	執行役員中央研究所長	山下 伸也
三菱電機株式会社	未来イノベーションセンター エクスプローリンググループマネージャー	山中 聡
ツネイシホールディングス株式会社	執行役員	津幡 靖久

※審査員長

<ファイナリスト概要>

#	チーム名 / 会社名	発表者名	テーマ名
1	株式会社カナラボ	金澤 等	異種・同種材料の改質による真の接着の実現-接着と塗装の強化による材料革新
2	株式会社Smolt	上野 賢	宮崎大学発！循環型サクラマス生産で地域水産業を拓く
3	Everblue Technologies	野間 恒毅	小型自律分散自動操船ヨット開発による漁業支援、エネルギー運搬、各種サーベイランス
4	株式会社ワンワールド・ジャパン	森方 重貴	過熱水蒸気熱分解技術による海洋ごみの資源化
5	RedDotDrone Pte.Ltd.	三浦 望	広域スポーツとドローン（空飛ぶ撮影スタジオの実現）
6	株式会社かもめや	福井 健太郎	ドローン物流事業者向けの運行管理システムインフラソリューション提供
7	炎重工株式会社	萩野谷 征裕	生体群制御技術を用いた養殖自動化システム
8	サステナブルエネルギー開発株式会社	光山 昌浩	海洋漂着プラごみ等を原料にしたメタン発酵ガス化発電事業
9	Novelgene	小倉 淳	新規遺伝子探索アレーを用いた海洋マイクロプラスチック分解による環境浄化
10	羽ばたき堂	野村 泰暉	空と風との間には
11	根室喰nemurock 松田商店	松田 英照	漁業収益向上を目指した鮮魚の高鮮度保持技術の開発
12	廃ゴムリサイクルプロジェクト	佐藤 伸	キノコによる廃ゴム再資源化プロジェクト

<ライトニングトーク概要>

#	チーム名 / 会社名	発表者名	テーマ名
1	株式会社ピリカ	小嶋 不二夫	株式会社ピリカ
2	株式会社リューテック	粟井 郁雄	株式会社リューテック
3	うみの株式会社	中村 智治	うみの株式会社

<表彰>

最優秀賞1件、企業賞10件（三菱電機賞、日本ユニシス賞、三井化学賞、川崎重工業賞、DNP賞、竹中工務店賞、ヤンマー賞、ロート賞、新日鉄住金エンジニアリング賞、日本財団賞）

チーム名 / 会社名	テーマ名	受賞
株式会社カナラボ	異種・同種材料の改質による真の接着の実現-接着と塗装の強化による材料革新	DNP賞／川崎重工業賞
株式会社Smolt	宮崎大学発！循環型サクラマス生産で地域水産業を拓く	-
Everblue Technologies	小型自律分散自動操船ヨット開発による漁業支援、エネルギー運搬、各種サーベイランス	-
株式会社ワンワールド・ジャパン	過熱水蒸気熱分解技術による海洋ごみの資源化	小橋工業賞
RedDotDrone Pte.Ltd.	広域スポーツとドローン（空飛ぶ撮影スタジオの実現）	-
株式会社かもめや	ドローン物流事業者向けの運行管理システムインフラソリューション提供	最優秀賞／三菱電機賞
炎重工株式会社	生体群制御技術を用いた養殖自動化システム	日本財団賞／日本ユニシス賞
サステイナブルエネルギー開発株式会社	海洋漂着プラゴミ等を原料にしたメタン発酵ガス化発電事業	荏原製作所賞
Novelgene	新規遺伝子探索アレーを用いた海洋マイクロプラスチック分解による環境浄化	-
羽ばたき堂	空と風との間には	損保ジャパン日本興亜賞
根室喰nemurock 松田商店	漁業収益向上を目指した鮮魚の高鮮度保持技術の開発	日鉄エンジニアリング賞
廃ゴムリサイクルプロジェクト	キノコによる廃ゴム再資源化プロジェクト	三井化学賞

<当日の様子>



3. 伴走支援詳細

マリンテックグランプリ実施後の2019年9月30日から2020年3月31日に、書類選考を通過した12チームに対して、事業化に向けた支援を行った。月1回程度の面談等により、経営全般に関するアドバイス、及び研究機関や町工場、大企業等の外部組織の紹介を行った。

3.1 内容

以下に、各チームの支援状況をまとめる。

<各チームの支援状況>

チーム名 / 会社名	受賞	グランプリ後の支援内容と状況
株式会社カナラボ	DNP賞／川崎重工業賞	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎重工業と協業の可能性を検討する面談を実施。 ・小橋工業と協業の可能性を検討する面談を実施。 ・事業化可能性調査事業採択。
株式会社Smolt	-	<ul style="list-style-type: none"> ・大手工作機械、電子制御機器などの製造・販売を行う事業会社を紹介し、研究支援を受けている。 ・2019年12月第三者割当増資を実施。 https://techplanter.com/2019/12/02/smolt-miyazaki/
Everblue Technologies	-	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ユニシスと協業の可能性を検討する面談を実施。 ・ヤンマー株式会社と協業の可能性を検討する面談を実施。 ・プロジェクト・イッカクヘエントリー。 ・現在2m機にて洋上試験を実施中。

株式会社ワンワールド・ジャパン	小橋工業賞	・小橋工業と協業の可能性を検討する面談を実施。 ・プロジェクト・イッカクヘントリー。
RedDotDrone Pte.Ltd.	-	・プロジェクト・イッカクヘントリー。
株式会社かもめや	最優秀賞／三菱電機賞	・リバネスグループ会社であるグローカリンクより出資。 https://glocalink.com/2020/02/28/kamomeya/
炎重工株式会社	日本財団賞／日本ユニシス賞	・日本水産と水槽内のエビをサイズに応じて移動させる共同研究を実施中。
サステナブルエネルギー開発株式会社	荏原製作所賞	・損害保険ジャパン日本興亜株式会社と協業の可能性を検討する面談を実施。 ・プロジェクト・イッカクヘントリー。
Novelgene	-	・2019年10月15日にノベルジェン株式会社を設立。 ・プロジェクト・イッカク採択。
羽ばたき堂	損保ジャパン日本興亜賞	・香川テックプランターヘントリー。
根室喰nemurock 松田商店	日鉄エンジニアリング賞	・ヤンマー株式会社と協業の可能性を検討する面談を実施。 ・会社化に向けて支援中。
廃ゴムリサイクルプロジェクト	三井化学賞	・大手事業者部品メーカーと協業の可能性を検討する面談を実施。 ・三井化学株式会社と協業の可能性を検討する面談を実施。

4. シンポジウム詳細

超異分野学会にて、マリンテックグランプリファイナリストを招待し、シンポジウムの実施を行った。

<イベント概要>

イベント名：第9回超異分野学会本大会

開催日時：2020年4月23日（木）09:00～18:00

※本イベントは、当初、3月6日～7日の2日間かけて行う対面式の学会を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症に関する日本政府の指針を受け、4月23日に延期された。さらに、その後の日本政府による緊急事態宣言の発令を受け、同日にオンラインにて、一部パネルディスカッションと3分研究発表を行うこととなった。

そのため、マリンテックグランプリの一部ファイナリストによるセッションと、研究発表のみを実施した。

<シンポジウム名>

「海ごみ問題」を超異分野チームで解く

セッションパートナー：日本財団、一般社団法人日本先端科学技術教育人材研究開発機構（JASTO）

日時：2020年4月23日（木）11:00-12:00

聴講者：アカデミア、ベンチャー、大企業、町工場、地方自治体、教育関係者、中学・高校生500名程度（オンライン聴講）

<セッション概要>

社会課題の解決が、新しいビジネスの種になる時代が来ている。特に「海ごみ問題」は世界的に注目されている課題であり、この課題を解決することで新たなビジネス機会を創造することが今求められている。これを実現するためには、研究者、ベンチャー、デザイナーなど様々な属性の人が組織や分野を越えてチームを形成していく必要がある。そこで本セッションでは、日本財団、JASTO、リバナスが共同事業として進める海洋プロジェクトの中から、「海ゴミ削減に資するビジネス」を生み出すにはどのような解決方法があるのか、技術やビジネスの両面の突破口はどこか、議論する。

<登壇者>

- サステナブルエネルギー開発株式会社 代表取締役社長 CEO 光山 昌浩 氏
- 株式会社天の技 代表取締役 工藤 裕 氏
- ジーエルイー合同会社 代表 呉屋 由希乃 氏
- 株式会社マイロプス 代表取締役CEO 折坂 聡彦 氏
- 株式会社リバナス 創業開発事業部 部長 篠澤 裕介（モデレーター）



5.事業化可能性調査について

5.1 背景と目的

過去2年間に渡り、海洋技術をシーズとした新規ビジネスを生み出すための支援を行ったきたが、特に本領域においては基礎研究と産業界の橋渡しが非常に重要であり、かつ事業化までには多くの時間と資金が必要であることがわかってきた。

そこで、今年度より過去の日本財団マリンテックグランプリファイナリストで、かつ、海洋研究を主軸に起業して間もない会社に対して、創業初期におけるベンチャーの事業化にむけた活動（概念実証、試作開発、市場化テストなどの研究開発等の実施を含むがこれに限らない）に関する調査、「日本財団マリンテックグランプリ事業化可能性調査」を行うこととした。

これにより、海洋技術シーズがより加速的に、効果的に新たな事業を創出し、拡大することを目的とする。

5.2 調査委託先ベンチャーの選定

本調査は前述の通り、海洋技術のシーズを持っている創業初期のベンチャーの事業化にむけた活動に関する調査としていることから、過去3年間のマリンテックグランプリのファイナリストの中から、以下の条件に合うベンチャーを選定した。

- 株式会社化されていること
- ベンチャーキャピタルから出資を受けていないこと
- 日本財団の他の助成を受けていないこと
- 会社設立1年以内であること

その結果、以下の3社が当てはまった。

- 株式会社イノカ：2018年ファイナリスト。その後、2019年4月に起業。
- 株式会社カナラボ：2019年ファイナリスト。2019年4月に起業。
- 株式会社Smolt：2019年ファイナリスト。2019年4月に起業。

上記3社に対して、電子メールにて応募要領並びに提案書様式を添付する形で「日本財団マリンテックグランプリ事業化可能性調査事業」への提案を募集した。結果、3社とも提案があり、12月24日までに提出された申請書をもとに審査を行った。

① 株式会社イノカ

提案プロジェクト名：「ノアの方舟」の実現に向けた技術開発プロジェクト

必要額：2,000,000円

1. 水槽内の海洋生物の生体（サンゴや魚）を遠隔でも観察できるようにするために、水中カメラや水中ドローンなどを使った生体の監視技術の向上を行う。
2. 水槽内の環境コントロール技術を確立するために、塩分濃度や、栄養塩などの要素をセンシングする水環境コントロールの技術開発を行う。

② 株式会社カナラボ

提案プロジェクト名：接着不可能とされる材料を接着可能にする技術による材料革新

必要額：2,000,000円

1. 現存している接着剤ではどうしても接着できない素材の組み合わせ、例えば「金属とポリエチレン」「フッ素樹脂と木材」「シリコンゴムとプラスチック」のような、既存の技術では不可能と言われている材料を接着できる材料の接着性を理論的に改質する。
2. 現在プロトタイプ中の接着技術を実際に適用した最終製品によるテストが必要。具体的には、CFRP および CFRTP 成形物の接着性の無い材料の接着性向上処理の時間を、より短縮する必要がある。

③ 株式会社Smolt

提案プロジェクト名：サクラマス養殖の生産性改善および市場ニーズにマッチした商品開発

必要額：2,000,000円

事業可能性調査内容：

1. サクラマスの生存率をあげるためのエサの研究開発を行う
2. サクラマスの魚肉およびいくらの商品開発を行う

5.3 審査結果

審査の結果。3チームに対して、それぞれ以下の額をリバネスから受託金額を採択とした。

- ① 株式会社イノカ： 1,500,000円
- ② 株式会社カナラボ： 1,500,000円
- ③ 株式会社Smolt： 2,000,000円

以上

